

HACCP講習会を開催 食の安全性向上のために

熱心に講義を聴く受講者



1月28日(水)〜30日(金)に当協会主催の「2025年度HACCP講習会」を開催

この講習会の特徴はグループ演習で、メンバー間で意見を出しながらプランを構築していきます。実践型で、それぞれが自社に戻ってから、HACCPプランの見直し、再構築など役立つ内容になっています。最終日の最後にテストを受け、合格し、修了証を手にしたときの受講生の安堵の顔を見ることが、主催者としても嬉しい瞬間です。

県地域猫活動ガイドライン改正 住民同士で話し合いを

このたび広島県では、改めて県民の皆さまに対し、飼い主のいない猫に関する問題を身近に受け止めていただくことを目指し、地域猫活動ガイドラインを改正しました。

「地域猫活動」とは、地域住民の十分な理解の基に、飼い主のいない猫への不妊去勢手術の徹底や給餌・排せつ物の管理などを行う活動です。

地域猫活動を行うことで、猫の生活の安定と、地域住民の猫に関する苦情減少につながる事が期待されます。

ただし、地域猫活動による効果をしっかり得るためには、考え方の異なる地域住民同士が話し合える場が必要です。これは、住民が主体的に地域課題など

を共有し、解決に向けてともに活動してこうとする「地域づくり」の考え方に通ずるところがあります。

飼い主のいない猫をはじめとして、地域における動物問題は、住民同士の感情的な対立と結び付きがちですが、まずは課題を客観的に見つめ、住民間で共有してみましよう。

その上で、猫の生態や地域猫活動のコツなど専門的な部分については、今回改正したガイドラインで紹介していますので、参考してみてください。

地域猫活動についてもっと知りたい場合は、県内の各動物愛護センターに相談できます(広島市、呉市、福山市にお住まいの場合は各市の動物愛護センター、それ以外の市町にお住まいの場合は県の動物愛護センター)。活動の条件が合えば、行政から手術の支援が受けられる場合もあります。また、独自に活動支援の仕組みを整備している市町もあります。

猫と上手に共生できる地域が少しでも増えれば、とてもうれしいです。

(広島県健康福祉局食品生活衛生課)



地域猫活動に関する情報はこちらから



読者アンケートにご協力いただきありがとうございました

令和7年11月1日から12月31日にかけてアンケート調査を実施し、45人の読者から回答が寄せられました。紙面サイズについては、現行のタブロイド判が51%と半数を占め、次いでA4版が29%、デジタルデータが20%という結果となりました。また、文字のサイズや情報量、紙面の見やすさについては現状で問題ないとの意見が多数でした。

二次元コードを用いた読者アンケートは初めての試みで、回答方法の説明記事の掲載などを行いましたが、回答数は例年よりも少ない結果となりました。

今回の調査結果を十分分析し、今後の情報紙づくりに活用してまいります。ご協力ありがとうございました。

(地域活動支援センター)

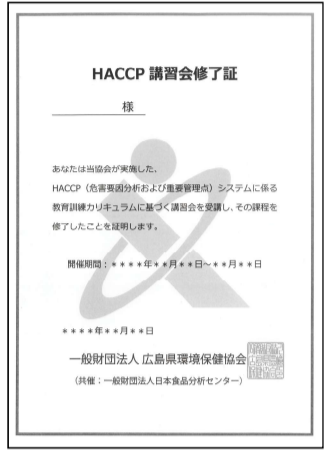
興味のあるテーマ TOP4

1	防災・減災
2	循環型社会の構築
3	低炭素社会の構築
4	食の安全 病気や疾病予防 公衛協の活動

しました。中国エリアを中心に、関西、四国、九州、エリアの、食品事業23社から34人が受講しました。講習会は3日間コースとなっており、HACCPの構築手順からプラン作成まで、講義とグループ演習で構成されています。受講生は、経営者をはじめ、製造部門、品質管理部門、営業部門などのベテランから若手と、さまざまな立場の方々が集まりました。本講習会は、昨年度から一般財団法人日本食品分析センターと共催し、今回で2回目となります。

3日間、講義室で缶詰め状態の研修のため、昼食のお弁当やコーヒープレイクのおやつにも工夫をしながら、充実した講習会にしていきたいと思えます。講習の内容を、自社の食の安全性の向上に役立てていただくと幸いです。来年度も皆さまのご参加をお待ちしております。

(食品衛生課 和田貴臣)



配布した修了証

廃棄物処理施設の精密機能検査とは

暮らしを支える施設を守るために

環境協の環境生活センター
④⑧環境計画課

ごみ処理施設やし尿処理施設、リサイクル施設などは、毎日の生活で出る廃棄物を安全に処理するために欠かせない施設です。これらの施設は市町や一部事務組合が管理し、地域

の衛生環境を守る役割を担っています。こうした施設が長期間にわたり、安全かつ安定して稼働し続けるためには、日常の点検や保守作業に加えて、法律に基づき施設の機能や設備の状態を詳しく確認する「精密機能検査」を定期的に行う必要があります。

この検査は、車の定期点検のようなもので、故障が発生する前にその兆候をみつけ、適切な対策を講じるための大切な検査です。この精密機能検査は、われわれが建築士や技術士として、これまで培った技術、経験を活かして実施し、施設の現状を分析し、必要に応じて改善の提案を行うことで、施設の長寿命化や安全性の向上につなげていきます。

機能等の評価」→改善案の提示」の順に進みます。「書類調査」では、過去の運転データや維持管理の記録、点検補修の履歴、各種分析結果などを整理し、これまでの状態を把握します。「現地調査」では、建物や水槽、設備、装置の劣化状況を確認します。また、処理工程ごとの水質検査や、脱臭装置の点検の調査も行います。「処理機

能等の評価」では、過去の運転データと現在の状況を比較し、処理機能がどの程度維持されているかを評価します。「改善案の提示」では、検査結果をもとに設備の状態を「良・要補修・要交換・改造」の4段階で評価し、施設がこれからの安全で安定して稼働できるような改善策を提案します。



現地調査を行う職員

この精密機能検査を通じて、わたしたちの暮らしを支える廃棄物処理施設が、安心して使われ続けるよう、見えないところで守り、地域全体の環境保全につなげていきます。

(環境計画課 田中日出夫)